

同和問題フォーラム開催!

9月5日、市立中央福祉館において同和問題フォーラムが開催されました。同館運営審議会の主催で、市長以下、管理職全員が出席してのフォーラムは初めての試み。



これは「地対特法」の最終年度の中で、地域の実態の課題を正しく把握し、地域発展のために総合行政をどう進めるかを話し合うのが目的。フォーラムは、福岡運営審議会委員長が、「同和問題は特定の課だけでなく、総合行政の中で全職員が意識して、ひとつひとつを具体的に解決しよう」とあいさつ。その後、山崎啓発・交流部会長、助役、教育長の三者がそれぞれの立場から問題を提起。これらをもとに審議会委員と各課長が、さまざまな問題を浮き彫りにし、具体的な対策などを協議しました。

会の最後には、このフォーラムが南国市の同和問題を考えるうえでは、画期的なことであった点と、運動の大切さ、そして「行政は縦割りではなく、斜め割り」という各課の垣根を超えた解決を目指そうというまとめを行い、行政と地域が一体となって同和問題の解決に向け、取り組みを進めなければならないと全会一致で確認しました。

市長以下、管理職全員集合!

震災対策緊急参集訓練実施!

9月1日の防災の日、「管理職対象震災対策緊急参集訓練」が行われました。これは昨年8月に作成した市地域防災計画・地震災害対策編に定めた災害対策に沿って、勤務時間外に実際に地震が起こった場合を想定し、市災害対策本部を設置し活動体制が整うまでにどれほどの時間を要するのかを重点的に点検することが目的。

当日は午前7時にマグニチュード3クラスの地震が発生し、県内の震度は5~7との想定で実施。原則的に徒歩か二輪の登庁手段で、初動体制が肝心と全員が25分程度で集合。自転車で行った市長からは「いたずらに近道を通ってもよいに時間がかかる」と報告がありました。この後、災害発生時の対応の再確認や庁舎内の防火設備の点検などを行い、課題や反省点などについての提案の場が設けられました。



大急ぎで駆けつける市長



▼9月15日の早朝、後免野田体育会主催によるタイムウォークラリーが行われました。競技は約3kmの道のりを歩くのにかかる時間を申告して、タイム差を競うもの。優勝者はわずか10秒差でした。



▲8月29日、「ローカルアジェンダ21高知」(地球環境保全のための地域行動計画)策定作業を進めている県は、市役所で学習会を開きました。県の計画概要の説明の後、参加者が環境行政に対する要望や意見を活発に述べていました。



▲九月十日、大塚小中学校をメイン会場に、第二十九回南国市同和教育研究会が催された。市行政・教職員ら約七百人が参加して、日ごろの実践報告を基に、これからの同和教育についての学習を積み上げました。



▲九月一日から十七日、はまゆうちりぎり絵教室(市立南浦福祉館主催)による和紙ちぎり絵展覧会が、南国郵便局で開催されました。局を訪れた人々は、和紙で彩られた「平家物語」の世界をたのむしていました。



▲特別養護老人ホーム「土佐清風園」と「三宝荘」(野市町)は、歌で交流をと8月22日、三宝荘で合同のカラオケ大会を開きました。今回は初めての開催。

この日は、両園から職員と入所者ら約70人が参加。このうち15人がカラオケに挑戦し、ご自慢のものを披露。会場からは盛んに拍手が送られていました。

9月15日、市内各地区で敬老会が開催されました。

同豊公民館では、社会福祉協議会の主催で午前10時からの開会セレモニーの後、幼稚園児や小中学生の舞台での演技や、有志によるカラオケ、大正琴、尺八などの演奏もありました。お年寄りたちは、久しぶりに合う友達と笑顔で、声を交わしながら楽しい一日を過ごしていました。



敬老会開催!

同様に大塚公民館でも11時から開催され、来賓として出席した市長は、「物資のない時代を生きてきた先輩のおかげで、今日の繁栄があり感謝しています。未来に語り継ぎたいように伝えていきたい」とお礼を述べるとともに、記念品を贈呈しました。この後、お年寄りの代表が、主催者や世話役の人たちに感謝の言葉を述べ、楽しい宴会へと盛り上がっていました。



同様に大塚公民館でも11時から開催され、来賓として出席した市長は、「物資のない時代を生きてきた先輩のおかげで、今日の繁栄があり感謝しています。未来に語り継ぎたいように伝えていきたい」とお礼を述べるとともに、記念品を贈呈しました。この後、お年寄りの代表が、主催者や世話役の人たちに感謝の言葉を述べ、楽しい宴会へと盛り上がっていました。

カメラリポート

九月六日、浜田市長と国津守道社会福祉協議会副会長らが、長寿を祝って市内の百歳以上の高齢者を訪問しました。現在、市内には百歳以上の長寿者は十九名、百五歳という最高年齢者が二人います。

この日は、在宅で生活をしている長寿者を中心に、市からは自動血圧計、社会福祉協議会からは杖のお祝い品のをもって訪問。誰もが食欲はあるというように、百歳以上の高齢とは思えないほどの顔ツヤの良さ、中には、お風呂やトイレなどの自分の身の回りに関しては自分自身で行う人や、晩酌は毎

晩欠かさないといいつわものも、「ひ孫」や「やしやこ」に囲まれて楽しく生活しているのを見る、大家族で過ごすことが、長寿の一番の秘訣かも。



いつまでもお元気で

百歳以上の長寿者を訪問

▲8月27日、希望が丘学園(岡豊町)で夏祭りが行われ、大勢の人でにぎわいました。関係機関や地域の人たちと交流を深めようと、園遊祭と銘打って毎年行っているもの。会場では、職員や保育短大の実習生、岡豊体育会、BBSなどのボランティアグループの協力で開いた焼き鳥、金魚すくいなどの夜店がずらり。校舎内では生徒たちの12課題句や陶芸作品を展示。また、「お茶席」も構え、まっ茶をサービス。訪れた人々を喜ばせていました。祭りは午後8時過ぎの花火でフィナーレ、色とりどりの花火が夜空を彩りました。



救急の日

▲9月8日、市消防署員による人工呼吸や応急手当などの指導がサニーアックス駐車場において行われました。当日は、子どもたちに「救急の日」と書かれた風船をプレゼント。参加した人々は、人工呼吸器を使ったの応急処置を熱心に学びました。



▼柔道の和田道場(岡豊町)のチビッコ選手たちは、今年もすばらしい成績を残しています。9月12日には、市長らが全国大会出場を前に練習に励む選手一同を激励しました。中四国での最優秀選手の実績を持つ寛藤佐知子さん(大塚小6年生)からも緊張気味に健闘を誓っていました。



▲9月14日、国府小PTAでは、第2土曜日を有効に使って「地域の歴史を学ぶ」ことを目的に、国司館跡や永源寺、比江庵寺跡などを訪ね「俳句教室」を行いました。俳句づくりの決まりを習った後、史跡保存会の人から話を聞き、さっそく一句ひねっていました。11月10日の「つらゆき時代祭り」の「俳句の集い」での入賞を目指してたくさん作品を作る子もいました。